



ふくろう通信 For 臨床研修

平成30年1月発行 vol. 2

福島労災病院 臨床研修情報誌



あけましておめでとうございます！！

～新年のご挨拶～



明けましておめでとうございます！福島労災病院です。

今年は医学生の皆さんにこれまで以上に当院を知っていただき、最終的には研修先として選んでいただけるよう、精一杯情報発信していきたいと思っております。念願の研修医確保に向けた1年といたします！

新年のご挨拶として、渡辺 毅 病院長より医学生の皆様に向けてメッセージです。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

医学生の皆様へ

～ふくろう通信 For 臨床研修 (ふくろうは福島労災病院のキャラクターです)

福島労災病院は、1955年常磐炭鉱における労働災害への対処を主目的に開設されましたが、常磐炭鉱の廃坑に伴い性格が変化し、労災医療、職業性疾病の早期発見・予防、リハビリテーションのみでなく、様々な急性疾患や高齢化によって増加した癌や生活習慣病などの非感染性慢性疾患の診療に重点を移し、いわき市の地域医療連携の中核病院として救急医療や地域医療支援などの役割を担っています。

当院は、いわき市では最初に地域医療支援病院に指定され、現在、登録された175医療機関との連携で地域医療を展開し、紹介率、逆紹介率も毎年90%近い値です。そのような病院の性格から、当院の診療及び臨床研修の第一の特徴は、地域の診療所から紹介された多様な common diseasesの診療、及び未診断のfreshな患者さんの病因・病態診断を体験できること

です。この点は、私自身が2年半前まで在職した大学病院での、地域の中核病院から紹介された特殊な疾患や難病などの先進医療を主とした診療と対照的だと実感しています。すなわち、当院は、そのような疾患に関しては、診断後は福島県立医科大学附属病院を中心とした先進医療機関に紹介する役割を果たしています。

一方、当院は人口35万人の東北第二の人口を誇るいわき市において2番目の規模を誇りますが、認可病床406床（医師・看護師不足により稼働病床数は336床）の中規模病院で、全ての診療科が揃っている訳ではありません。そこで、当院にない産婦人科、小児科、精神科などの研修は、地域の専門医療機関や福島県立医科大学など高度先進医療機関との連携を行っています。さらに、厚生労働省が所管し全国各地に34病院を持つ独立行政法人が運営する当院の特徴として、全国の他地域の労災病院において一定期間研修し、異なった文化・風土での医療体験も可能となる予定です。すなわち、当院の研修は、多様な医療現場での医療人との出会いによるコミュニケーション能力・人間力、チーム医療の実践能力を持つジェネラリストの養成には最適と思われます。また、病院規模に比較して研修医定員が少ないことから、指導医から密着した指導が受けられ、基本的な診療技術を多く体験可能であることも特徴です。

当院の専門診療領域での特徴としては、いわき市で最初に地域がん診療連携拠点病院に指定されており、がんの手術件数はいわき市で最も多く、県内でも有数です。院内体制も、消化器癌、肺癌など多様ながん診療に精通した内科医・外科医が充実しており、長年の実績から、多彩ながん患者が地域の医療機関から紹介されてきます。

また、当院はこの地域で緩和ケア病棟を最初に開設して、終末期医療も展開しています。当院のがん診療は、診断、治療、緩和の一貫した診療体制が完備し、一人当たり多くの症例や診断・治療手技を経験できます。手術症例に関する内科・外科の合同カンファレンスも定期的に開催されます。すなわち、当院は、がん診療全般に習熟したスペシャリストの養成の後期研修には最適の環境と言えるのです。



院長：渡辺 毅





ふくろう通信 For 臨床研修

平成30年1月発行 vol. 2

福島労災病院 臨床研修情報誌

循環器内科においては、常勤医6名による24時間緊急オンコール体制で心疾患・脳卒中などの救急医療に対応しています。また、様々な合併症をもつ高齢者循環器疾患患者に対して、他診療科（糖尿病内科、腎臓内科、呼吸器内科、整形外科など）と連携した、多職種チーム医療を実践しています。2017年には福島県浜通り地区で初めて、心大血管疾患リハビリテーション（I）の施設認定を受けました。これらの他科・多職種連携チーム医療体制や心大血管疾患リハビリテーションによって、心大血管疾患の患者さんの再発予防による予後改善、生活の質（QOL）の改善を目指して努力しています。このように、当院の循環器内科は、インターベンションなどの手技に偏ることなく、急性期から慢性期における再発予防とQOL改善まで、一貫したトータル医療を研修するのに最適であると思います。

その他の既存診療科も医師不足という問題を抱えながら、個々の医師は、高い診療能力を発揮して診療にあたっています。すなわち、各領域の専門医・指導医において、コンサルテーションや専門領域の知識・手技の指導に十分な対応が可能です。また、当院の特徴であるレベルの高い看護師、医療技師、クラークを初めとする医療スタッフの補助のお陰で、研修医を含む医師が本来実施すべき業務に専念できる体制が各医師の診療を支えています。したがって、当院では医師本来の業務以外の仕事（いわゆる雑用）に時間を取られることなく、時間的に有効な研修が可能です。

最後に、現在、当院では老朽化した現在の病院から、3年後を目途に新築移転するための準備をしております。移転先は、2017年5月30日にいわき明星大学の隣接地であるいわき市中央台とする方向で基本合意しました。現在地から10km離れたいわき市の平と小名浜の中間に位置し、人口中心であるばかりか国道6号線バイパス、鹿島街道、いわきバイパスといういわき市の幹線道路の交差点という交通の便が良い場所に当たります。これによって、内郷地区に偏在している（人口3万未満の地域に一般病床の48%が集中）いわき市の急性期医療の地域偏在を是正することが可能と考えています。

新病院は、現在の病院よりも総合診療・救急医療・災害医療機能の強化、脳血管障害や急性冠症候群の診療など、現在のいわき市において医療需要が強いにもかかわらず十分に供給できていない医療機能を充実させたいと考えています。また、2011年に起こった東日本大震災の教訓から、新病院には一定期間自立可能なインフラ整備を行う予定です。飲料水や透析用浄化水を含む、病院機能を保つために必要な水の自給、電力の確保が行える新病院を設計し、さらには二酸化炭素の排出が少ない、環境にも配慮した病院をめざします。また、いわき明星大学看護学部・薬学部・医療技術系学部（2018年開設予定）の学生の実習病院として当院が活用されることによって、いわき市全体の医療従事者の育成にも貢献したいと考えています。新病院の建設によって、診療機能、研修・教育機能がさらに充実することを期待しています。

医学生、初期研修医の諸君！いわき市の地域医療連携体制（地域包括システム）の中で病院または診療所で活躍する人間性が豊かでコミュニケーション能力、チーム医療の実践能力を持つジェネラリストを志向する方、または、地域で活躍するがん診療や循環器疾患などのトータルケア能力に秀でたスペシャリストを医師としての自身の将来像と考える方々には当院の初期・後期研修は有意義なものだと確信しています。

さらに詳細を知りたい方は、内容によって、下記のメールアドレス（私または事務担当者（総務課長））へメールでのご質問をお待ちしております。病院見学もいつでも受け付けていますので、ご来院を心よりお待ちしております。

- 院長 渡辺 毅：twato423@fukushimah.johas.go.jp
- 総務課長 山口 徹：somu@fukushimah.johas.go.jp



お問い合わせはこちら！

〒973-8403

福島県いわき市内郷綴町沼尻3番地

福島労災病院 総務課（臨床研修担当）

TEL：0246-26-1111(代) FAX：0246-26-1322

E-mail：somu@fukushimah.johas.go.jp病院ホームページ：<http://www.fukushimah.johas.go.jp/>

2018年度研修医 二次募集中！！



いわき市